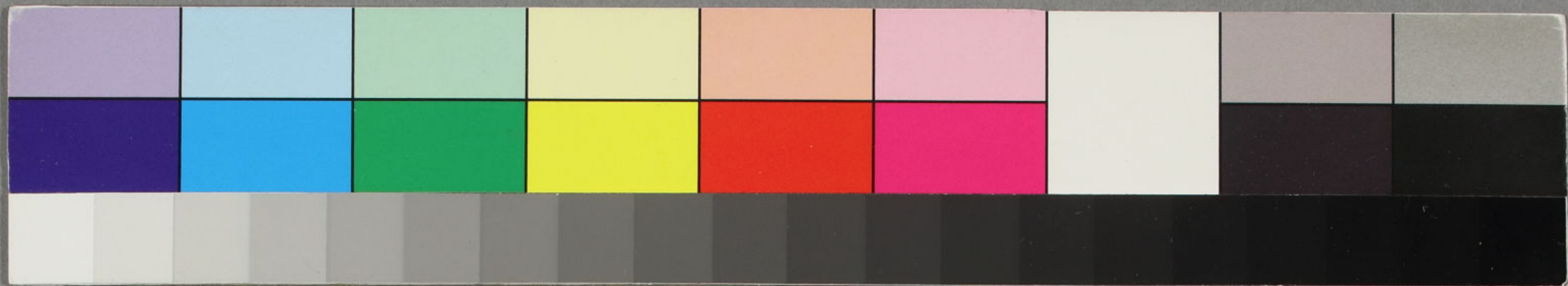


ネ 2
4271
5





增補懷寶永代藏
嘉永六年四版

集賢文庫

永代藏小引

美矣穀之為德
殷中和之淳祐
金柯玉葉播榮
頭於莆田載葵
載柞其耕澤々
不背芳春迎朱
夏而呈翠景邁
商秋而功名遂
烏獻粟操右契
獻米操量鼓丞
民乃粒長育養
性與天地合德
魯肅賑窮金琮



救吳龍畝之歌
和仁風昇平之
秋謝后稷東作
西收永享千秋
萬歲

寬延元歲次戊
辰夏五月之吉

田中友水子識



凡例

一諸國より大坂御所へ参上
不之米穀内入実儀取寄
記之

一登たての時たての内書
石ありとの所越年以後
又ハ藩の去地よりて減
り内書の様減ハその
時ハ藩の觸りぬ記之
一國々御大名御所へ江戸
より参上之時ハ
不之米穀大坂御所へ
高と為す知御所地知行
云々を参上

一先小流布之儀室永代
不之米穀よりハ藩の米穀
名目あるもれより入

実録目の遠方修纂
あつて相改令再版者
諸御統親系親より
の附き古系より少
か切く日限をきりて
和ふ乃心得なり

附録先徴系を著述
此書ハ羅羅れ下
又近星を考凡雨乃
天候を知生救るを
のん積り記す
其年中云々を候
て毎日の和を知豫豊
凶の考をとり
其外日用の心るは重
要なる増補なり

凡例終

増補懷宝永代藏

諸國御花米内実附

○大和

和列系

二俵
を不貳三俵
以後畧し儀敷を二ツ
三ツとあるに

○河内

川越系

二俵
を不四五俵

渚系

二俵
を不四五俵

同銀系

二俵
を不四俵

河内系

二俵
を不三俵

小栗系

二俵
を不三俵

和泉

二俵
を不三俵

岸留系

二俵
を不三俵

增補

一伏尾采

ニツ
不_レ二_レ殊

揚津凡分倚
四万石

二尼德本

ニツ半
ス三升

一門錄

ニツ年
石三株

○同

高柳
三万六千石

高拔禾

ニツ
五
糸

一門後集

二
四
五
殊

同

三田
三万六千石

田采

二ツ
石を裁糸

同

住吉

ニツ
スニ三

一
灘なみ
采

右

初、梅澤大徳家像を鑑み
 左之由（其形とて）南花米
 田井あり（後之）
 梅津米へおろく（石分石四井）

○山城
十萬三千石

一
演
承

ニフ
ス六七

○ 倭賀世二万三千

件いふ賀ふ采

ニツキ
九斗一貳升

○ 伊勢 桑名
十萬

一葉名錄

二
三

月柏詩

一石

○志麻子三万石

一身羽翼

ニツ
ハ斗を以て

○尾張名古屋
六十六子石

一尾張糸

九斗分孫

一
同
小
入

ニツ
ハ斗又六升

知要

スニツ
ニ
三
殊

一赤目米 ニツ 石四五升

○冬河 吉田 七万石

一吉田米 ニツ 九斗空升

一河内米 六斗

○強河 田中 四万石

一田中米 ニツ 八斗四又升

一河内米 六斗

○夏濃 加納 六万石

一加納米 ニツ 八斗五又升

○大垣 十萬石

一大垣米 ニツ 五斗五又升

○岩村 三萬石

一岩村米 ニツ 八斗五又升

○陸奥 會津 二十萬石

一會津米 ニツ 七斗七又升

一上米 下米

一中原米 下米

○月仙臺 三萬石

一仙臺米 ニツ 九斗三又升

一河小入 ニツ 八斗三又升

○河津 四萬七千石

一河津米 ニツ 七斗三又升

一青森米 ニツ 七斗五又升

○月白河 十萬石

一白河米 ニツ 八斗一又升

○月南部 十萬石

一南部米 十萬石

南米 九斗三升

大豆 八斗八升

三戸米 八斗七升

○出羽 十斗八升

一系米 九斗三升

●下三米 九斗三升

其折よりて米は出雲の
米事最遠の所を去る

○日 秋田 二十斗八升

一秋田米 三斗

一能代米 三斗

一地米 九斗

○日 上三山 二斗八升

○日 小久保 二斗八升

小久保米 三斗

○日 龜田 二斗八升

一龜田米 二斗八升

一白小八 四斗

○日本産 二斗八升

一本産米 三斗

○日本産 六斗八升

一系産米 三斗

一系産米 三斗

一系産米 三斗

一系産米 三斗

一系産米 三斗

○山形 六斗

一系産米 三斗

山形米

二ツ 九斗五升

二宮上米

三ツ 石四五升

一矢野米

三ツ 九斗三四升

○越前米

福井 三ツ 三万石

越前米

二ツ 八斗三升

○日九國

八万石

一丸墨米

二ツ 八斗五升

○日新江

五万石

一精江米

二ツ 八斗二升

○加賀

金沢 百二万七千石

一加賀米

二ツ 九斗九升

加賀能登

河西 新川

右四品米

右合二十

俵づから

一新川米

二ツ 九斗八升

一越前米

二ツ 九斗

一古米

二ツ 九斗九升

○同大町

七万石

一太田米

二ツ 九斗五升

新米

大坂 石

越前

石

越前

石

越前

石

越中

富山 十萬石

一富山米

二ツ 九斗三升

一土方米

二ツ 石

越後

高田 十二万石

越前

石

一高田米 八斗七升
一柏崎米 右四斗

○長尾 七万四千石
ニツ
八斗八升

○新島 五万石

一新島米 八斗九升
ニツ

一白小入 八斗九升
ニツ

一白大豆 八斗九升
ニツ

○同与板 二万石

一与板米 八斗
ニツ

○同村上 五万石

一村上米 九斗七升
ニツ

○同黒川 一万石

一黒川米 八斗
ニツ

一市本米 七斗六升

一白大豆 八斗三升
ニツ

○同椎名 一万石

一椎名米 八斗
ニツ

○同村松 三万石

一村松米 八斗七升
ニツ

○同

一三浦米 八斗七升
ニツ

一柿崎米 八斗八升
ニツ

一糸島米 八斗八升
ニツ

一蒲原米 八斗七升
ニツ

一鎌倉米 八斗三升
ニツ

一八海米 八斗七升
ニツ

一三根米 石二升
ニツ

二日大豆

二ツ
不き斗八升

○丹波

雄山
土万石

一登山系

二ツ
石き二升

二日録系

二ツ
石き二升

二日六豆

二ツ
石き二升

○日龜山

土万石

一龜山系

二ツ
石き二升

○日柏原

二万石

一氷上系

二ツ
九斗四升

右柏原系

・但丹波系は八斗の倍と云
河内系は八斗の倍と云
近江系は八斗の倍と云
安曇系は八斗の倍と云

○丹波田

三万石

一田系

二ツ
八斗七升

二日録系

二ツ
八斗二升

○日之澤

四万八千石

一久津系

二ツ
八斗二升

二日録系

二ツ
八斗二升

二日丹波系

二ツ
石き二升

○但馬

五万八千石

一山石系

二ツ
七斗七升

二日六豆

二ツ
八斗二升

○日之澤

三万石

一久津系

二ツ
八斗七升

○因幡

三万石

○伯耆

三万石

一系子系

二ツ
八斗九升

一太田系

二ツ
八斗九升

一赤湯上系

二ツ
八斗九升

三粟全米 橋津中上

由良中上 牙子下米

右六不山米、長久谷米、
此介屋、八つ、
あつ、
あつ、
あつ、

橋津米 二ツ 八斗四升

○出雲 松江 八斗六升

雲列米 八斗 上米 中米

母里米 二ツ 七斗七八升

廣濃米 太田 八斗

石見 津和野 四斗三升

八尾米 三ツ 八斗三升

同大夏 太田 八斗

同廣田 五斗四升

廣田米 三ツ 八斗三升

播磨 明石 六斗

明石米 二ツ 八斗

同銀米 二ツ 八斗

多可郡 二ツ 八斗

加古郡 二ツ 八斗

同姫路 十六斗

姫路米 二ツ 八斗

同銀米 二ツ 八斗

同富砂 八斗

同磨 八斗

同松陽 下米

同龍岡 五斗

同下野 三斗

同土生 三斗

香居米

ニツ
八三四升

一斗米

ニツ
八分五升

○日赤穂

赤穂米

ニツ
八斗五升

赤穂米

右日

○日完栗

完栗米

ニツ
一石一升

日大豆

右日

○日林田

林田米

ニツ
云ヨリ一升

又建米

○日三日月

三日月米

ニツ
八二三升

日大豆

ニツ
八五升

栗米

ニツ
八五升

日餅米

右日

佐用米

ニツ
九斗九升

日餅米

右日

日大豆

右日

○日

柳米

ニツ
八斗二升

日餅米

ニツ
八斗三升

日小豆

ニツ
八斗五升

日餅米

右日

加東米

ニツ
八二三升

加西米

右日

合谷米

ニツ
八四升

○日三本

三本米

ニツ
八二三升

○吳佐 肆山 五万石

作州米 三ツ 云云年

日籾米 右日乃

日大豆 右日乃

日菰米 三ツ 云云年

日菰籾米 右日乃

○日坪井 二万石

坪井米 三ツ 石分を并

日大豆 太日乃

日列米 三ツ 云云年

小田原籾 三ツ 云云年

日菰米 太日乃
右八割籾と云ふ籾は之を云ふ
籾列米と云ふ籾あり

備前 豊山 三万石云々

備前米 三ツ 云云年

四 片上 コクシ
新田 下米

日中米 日籾米

日赤米 三ツ 云云年

○備中 松山 六万石

松山米 三ツ 云云年

○日芦守 二万五千石

日守米 三ツ 云云年

日籾米 石日乃

○日成羽 五万石

成羽米 三ツ 云云年

日口米 三ツ 云云年

日中村 五万石

一倭中米

三ツ
二式三升

一庭前米

三ツ
九斗六升

一庭中米

三ツ
八斗七升

○備後福山

一倭後米

三ツ
九斗三升

一倭前米

三ツ
九斗

○安藝廣嶋

一廣嶋米

三ツ
九斗六升

一城下米

下米

一たの海

下上米

一三原

下米

一竹原

上米

一尾道

中上米

右四米倭後北内米
おきし米多ふみふ米

○周防岩園

一岩園米

ニツ
八斗七升

一倭米

右日

○同徳山

一徳山米

三ツ
一斗六升

一夜布

上米

一四原

中米

一上村

下米

右七米熱下で徳山米之

○長門

一中國米

三ツ
九斗九升

○十三

あきのき たろ

はききき 山口

右上米

大崎 徳地 さむ

右中米

上関 津路 くまげ

右下米

大依 八斗口又外

太之谷 惣て中国米之

○同

長府 八万石

長門米

二万石

阿波米

八斗口

○同

清米 二萬石

清米米

八斗口又外

○紀伊

和角山 八斗口又外

紀伊米

八斗口又外

○阿波

徳地

○淡路

二万石又九夏

阿波米

二万石

阿波米

二万石

阿波米

二万石

国納 八斗口又外

阿波米

二万石

阿波米

二万石

阿波米

二万石

夫豆 打良電 通年八斗口

阿波米

二万石

○阿波

二万石

阿波米

二万石

阿波米

二万石

一 日小麦 八斗七升

○ 日九条 六万三千石

一 九条 八斗四升

○ 伊豫 松山 十五万石

一 伊豫 八斗六升

一 日小麦 八斗六升

一 日大豆 八斗六升

○ 日今治 三万五千石

一 今治 八斗四升

一 日小麦 八斗四升

○ 日宇和 十萬石

一 宇和 九斗六升

一 日小麦 九斗七升

太宰和赤といふも、此赤米を

か米の撰出に此赤米

一 日小麦 八斗六升

一 日小麦 八斗六升

一 日小麦 八斗六升

一 日小麦 八斗六升

一 日小麦 八斗六升

○ 日吉田 三万石

一 吉田 九斗七升

一 日小麦 八斗六升

一 日大豆 八斗六升

一 日秋大豆 八斗六升

一 日地拂米 九斗八升

一 日小麦 八斗六升

○同西條三万石

西條米 二ツ 八斗三四升

○同大洲 六万石余

大洲米 二ツ 五石

同鑄米 右同

同大豆 石同

同大豆 右同

○同新谷 五万石

新谷米 二ツ 五石

織部米 五石

同大豆 右同

○同小松 五万石

小松米 二ツ 五石

同鑄米 二ツ 五石

○同佐 五万石

佐米 八斗

同右米 八斗

日于前も右米 五石

右米 五石

○同新谷 五万石

新谷米 二ツ 五石

同大豆 石同

同大豆 右同

同大豆 五石

同大豆 五石

同大豆 五石

同大豆 五石

同大豆 五石

右同大豆 五石

○秋月 八万石

一秋月米 二ツ

一秋米 二ツ

一秋米 三ツ

一秋米 三ツ

○筑後 久留米 二十二万石

一筑後米 三ツ

一筑後米 三ツ

一筑後米 三ツ

○同柳川 土芳九千六百石

一柳川米 三ツ

一柳川米 三ツ

一柳川米 三ツ

一柳川米 三ツ

○同三池 三万石

一三池米 三ツ

一三池米 三ツ

一三池米 三ツ

一三池米 三ツ

○豐前 小倉 十八万石

一豐前米 三ツ

一豐前米 三ツ

一豐前米 三ツ

一豐前米 三ツ

○同中津 十萬石

一中津米 三ツ

一中津米 三ツ

一中津米 三ツ

○同浦 三萬石

一浦米 三ツ

同筑前縣米 三ツ 九斗八九升

○同小倉新田 三ツ 五斗

小澤米 三ツ 五斗

同縣米 三ツ 五斗

○豐後 三ツ 五斗

同縣米 三ツ 五斗

同縣米 三ツ 五斗

右賣買ハミ之儀ノミ

ナリ但シ十俵九之五段に

九を以て代張の江波を

同大豆 三ツ 五斗

同小豆 三ツ 五斗

○同白杵 三ツ 五斗

同縣米 三ツ 五斗

同小豆 三ツ 五斗

同大豆 三ツ 五斗

同小麦 三ツ 五斗

○同府内 三ツ 五斗

同府内米 三ツ 五斗

同大豆 三ツ 五斗

右二十俵ハミ之儀ノミ

○佐伯 三ツ 五斗

佐伯米 三ツ 五斗

○同杵築 三ツ 五斗

杵築米 三ツ 五斗

同縣米 三ツ 五斗

同大豆 三ツ 五斗

○月日出二万五千石

日出米 三ツ 九斗二升

月籾米 太旧以

月大豆 太旧以

○月小日出五千石

小日出米 五ツ 九斗七升

月籾米 太旧以

月大豆 太旧以

○月籾一万三千石

籾米 五ツ 八斗六升

月生籾米 五ツ 八斗八升

月秋大豆 太旧以

右各十俵三石

丹後籾米 二ツ 五斗

月籾米 太旧以

月籾米 七斗八升

月大豆 八斗一升

月大豆 八斗三升

○肥米 佐賀 三斗七升

武尾米 五ツ 九斗九升

肥前米 五ツ 九斗八升

月籾米 太旧以

月大豆 太旧以

月赤米 五ツ 九斗七升

○月蓮池 八万三千石

甲列米 五ツ 九斗七升

月籾米 五ツ 九斗七升

甲列籾米 太旧以

白籾毛 赤籾毛

○同唐澤七万石

一唐澤米 三ツ 九斗六七升

一田籾米 太田 九斗

一田生籾米 太田 九斗

○同大村 三万七千石

一大村米 三ツ 九斗六七升

○同鉢早

一鉢早米 三ツ 九斗六七升

○同伊万里 四万石

一伊万里米 三ツ 九斗八升

○同麻崎 貳万石

一鹿嶋米 三ツ 九斗六七升

一田籾米 三ツ 九斗八升

○同小城 七万四千石

一小城米 三ツ 九斗六七升

一田手米 太田 九斗

○同平戸 六万五千石

一平戸米 三ツ 九斗二升

一田籾米 三ツ 九斗一升

一田小麦 三ツ 九斗

一田大豆 三ツ 九斗

一田夏豆 三ツ 九斗

○同嵯原 七万石

一嵯原米 三ツ 八斗

一田小麦 三ツ 七斗八升

一田生籾米 三ツ 七斗八升

一田籾米 太田 九斗

一戸大豆 一斗四升

一戸小豆 八斗四升

一戸大豆 八斗六升

右各々後玉米之

○肥後 腰本 五十四万八千石

一肥後米 八斗六升

八代米 川尻米

高瀬米

本三不山米 前夜合出

一戸籾米 石一斗外

一戸小麦 太田

一戸小麦太儀 石一斗外

一戸右米 石一斗外

一戸大豆 石一斗外

○戸田 田 三万石

一戸籾米 石一斗外

一戸八代米 太田

一戸籾米 太田

一戸出山米 石一斗外

一戸出山米 太田

一戸出山米 太田

○戸田 土 三万石

一戸肥後米 石一斗外

一戸籾米 太田

一戸左米 石一斗外

○戸田 相良 二万石

一戸相良米 八斗

○日向 延 八万石

延豆

九斗六升

大豆

六斗

糯米

六斗

右三斗八升後國米之儀
延豆をなす

粟

二斗
九斗九升

餅

二斗
石六升

宮崎

二斗
九斗六升

右三斗日向國米之

○伏素二斗五升

佐原

二斗
九斗六升

餅

六斗

赤米

六斗

大豆

九斗六升

廣

三斗

○高橋三斗

高橋

二斗
九斗二升

赤米

六斗

○飯肥五斗

佐原

二斗
九斗六升

赤米

九斗六升

精麦

六斗

小麦

六斗

○大隅

○薩摩 鹿兒島
七斗五升

薩摩

三斗
石二斗三升

中米

三斗
石六升

餅

六斗

赤米

三斗
石八升

地不系

河中央系

三ツ
石六七升

河大豆

三ツ
石斗三升

一穂子系

三ツ
石六七升

一鹿系

四ツ
石七八升

一琉球系

四ツ
石八升

是を琉球系と唱ふ

○田安所産系

一泉列系

一石

一河追系

石一升

一有之系

一石

一橋下系

石一升

一西成系

石一升

一三本系

一石

○一橋御産系

一泉列系

一石

一橋列系

石一升

一播列系

石二升

是と一橋系と云ふ

右田安附ハ西國小玉系初

の産りの内美之大坂系

の後産に細く自粒徑に

あつて内美減少する之

列々小國系ハ名氣と含

め其減少多し又年々

を減らして痛事もあり

痛まぬものも有れば其の

事古来地の肥地も

増補

昔人内実れ増城ハ其時
中流より艦ありん依り
心寧増城こそは須男を

○諸國御在米穀進出之事

一法御在方當年穀米穀
米穀の分米穀出切何月
何日限と御在や一こ
より漢方米穀進出也
是と進出と漢市場米
米穀進出也又米穀を
進出する米穀進出也
漢方より米穀進出也

不産出米向ひ米穀進出
日限と御在番米穀進出
一日不産出に付て米穀
ハ米穀進出も進出ん出
米穀進出方より米穀進出
米穀進出色く有之

一西國米たへハ子年米
米入北拂ハ月九十月に
より米進出ハ米進出
春夏より米進出

一北國米たへハ子年米
米入北拂ハ米進出ハ西國
より米進出ハ西國
冬々米進出ハ西國

秋と云ふ

右大塚六の通でなければ
登岸の多あつていれ
仕束りの様式であつて速
く此時定定の速速
相違あつても救済に
ありて悉く記といふ
あらば具治定に
依りてその辨別
所方其外賣買を
米谷と粗花とを
一と余六准之の寛
急をことと公得て切手
不粘之輩八其を以り
て受合を

●西國蔵之公由年表

穀八九十月分入札即

賣拂之

よりて連年の年月を

仲儀

追出
明年六月廿日限

古儀

明年八月十四日限

佐儀

明年九月十五日限

阿儀

明年九月限

中儀

明年十月十日限

佐儀

明年二月十日限

廣儀

明年三月十日限

佐儀

明年四月十日限

豊儀

明年三月十日限

● 雲 薺

明・三月十日限

● 肥 薺

明・三月十日限

● 中 薺

明・三月十日限

● 大 薺

明・三月十日限

● 後 薺

明・三月十日限

● 肥 薺

明・三月十日限

● 北 薺

明・三月十日限

但し出雲・米子の郡薺ハ
色國由（西・米子）振かり
尚（多）米冬・分・又・也・り
此・薺・子・同・年・九・十・月・より
入・杞・七・日・迄・入・之

● 出 薺

明・三月十日限

● 米 薺

明・三月十日限

此・米・薺・を・米・の・分・に・新
穀・冬・分・又・新・穀・を・米・年・迄
翌・年・春・の・事・より・四月・迄
子・を・り・の・事・又・米・年・三・四・又
月・々・より・入・杞・七・日・迄・入・之

● 法 薺

明・三月十日限

● 越 薺

明・三月十日限

● 秋 薺

明・三月十日限

● 弘 薺

明・三月十日限

● 加 薺

明・三月十日限

● 横 薺

明・三月十日限

● 柳 薺

明・三月十日限

● 作 薺

明・三月十日限

● 盛 薺

明・三月十日限

● 素 薺

明・三月十日限

● 柏 薺

明・三月十日限

利あり人欲はへば水といへ
ども得て害既にほかに

あり又弘法大師の言又

松のぼけは流るゝあまをせ

とゑてこゝろに測るゝを

あづきもそゝかん樹をそ

まきんとの敬戒の工の量

まきん心まき此乃理を

して日これ小きく或大を

下はなるでけり功多て

まゝ朝云を西の術も

こゝろまゝなり近年の相

場むゝと遠人を世智

賢くかりてゑる下け

庭ぶるゝとくはまき

とんとるふ布より好の外

下り又安き相場にて

大なりもあふゝとれり

時も其はより不中止

まきまきふまきもるに不

して自れゝる下れ

せまりふくかりて小え

の高心にて中々大令

こゝろがこゝろ時

小親さゝりひねむ

そゝてまき法は教のこ

かゝり得ていくゝな

こりてえき全とるや一並
祢ハ只入高内い出まぬ人
えくハかりけりなりまに
我な烏有大成先きハこの
道よひくく後丹煉
て内外九段の高内と立て
著述せり書あり其初
巻より外備法と説く
中より六内術三密の云
とるひくく下れ書に内
靜一貫の心法と載たり
此書に偶目とるくく
ア今ハ二三と陳と左と記す
此道は昔ハ人ハ知とる
此書の意味深長とかんぐ
あらべ

○相場直教書止り

一六二七三八四九五目

生殺とて易法又殺て教あり
大凡義法陰陽の理教此生
教にあつてふふとて相場
直教たふハきとるよりよりて
えくくくく死くくハバ
ハきとるよりよりて止るの
なり又えくより上とて七
とて止るハきより上に持合
いやく死くくハバ丁きとら
までハよりとるハバ止るは

と云ふなり此歟然れキヒツカ
の止り教^{うそ}之とて止るが事ば
まこときにうつり又然れども
かりしと云ふべし

天地の氣陰陽の五理

あつてひるすもつゝのあへ
びんやう ひんやう
みんやう みんやう 教へらるゝことな

たふがふさふさの附はる所
たふがふさふさの附はる所
たふがふさふさの附はる所

或は其日のより付く事

と云ふの般大を止む者

なりて其の五十六の文を

此救苦水

黄正長時のふりし金

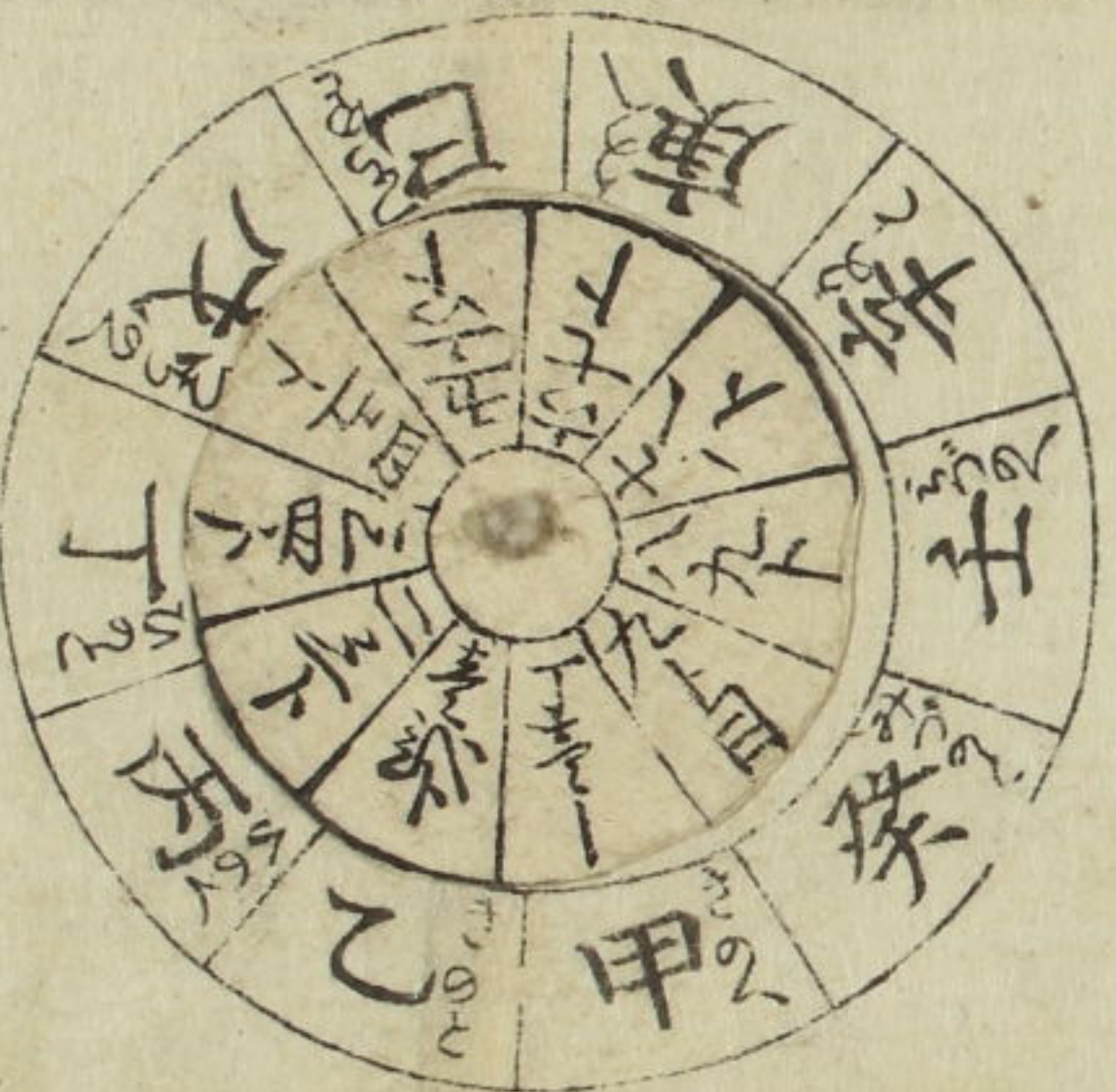
此乃一也

救ふありふとありのふ

○懷念寄謝服之具白

下篇 止る事

旋機圖法



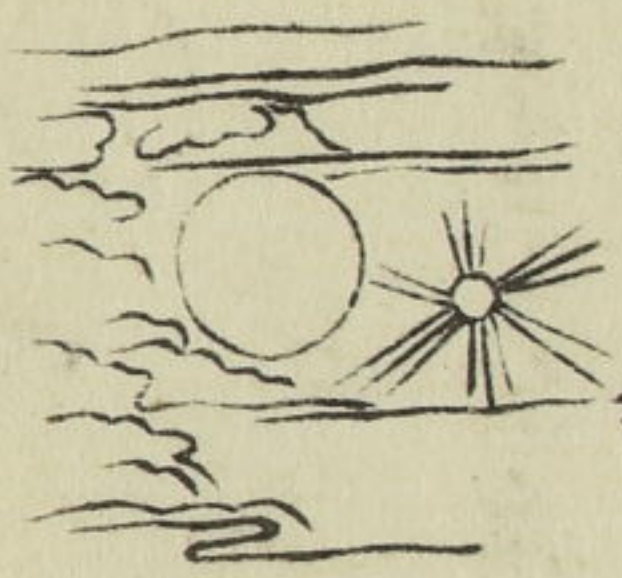
たふが糸^まの相^{あひ}應^{おう}を^こと^へて

南門は旦より日暮まで一武と

お付^{この}付^しの字^には^{どう}く^つ図

星成儀は二星と云に
あつせり

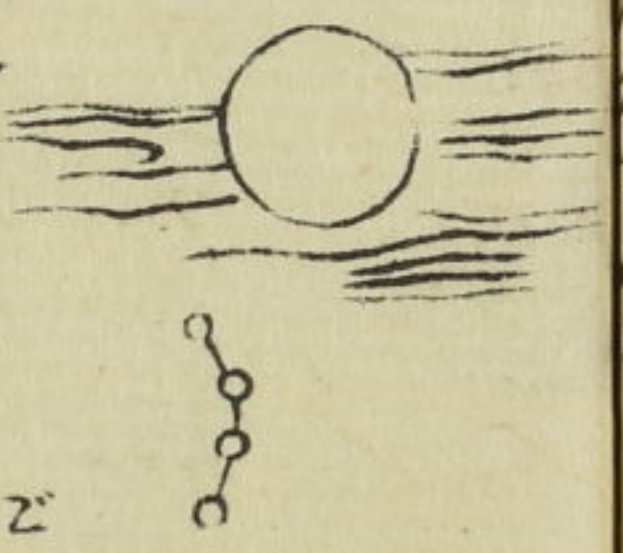
水星紀月



此國ハ五星の心ハ星なり
ハ星月のほろりと犯ば
かろくハ大なるありき
若月の中ハ入とあり
天下大ニハみれり
あつせり
後ハ新輯要と
いふ事あり

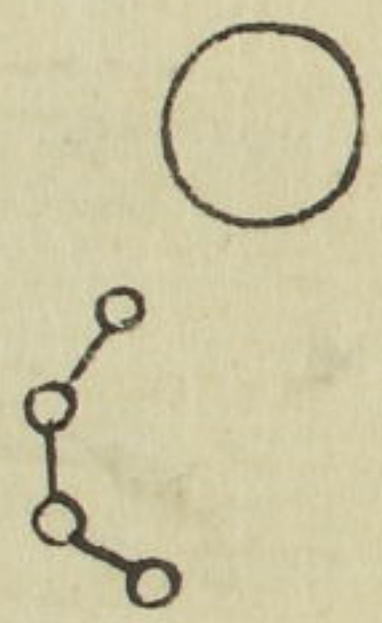
月行

北方



此國の近星ハ大なる
害ありハ房星ハ二天宮の
内かりきハ大水けき

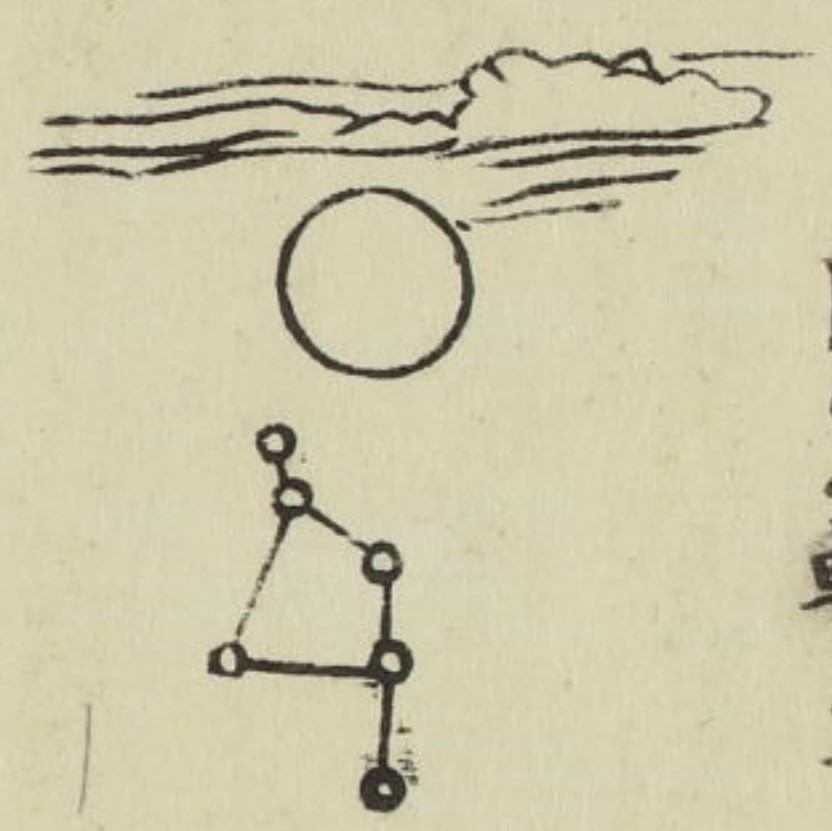
箕星紀月



箕星ハ二十八宿の内ハ
近ハ大風のありき
ハ箕星ハ風と好星ハ
陰積と得ハ大風と起

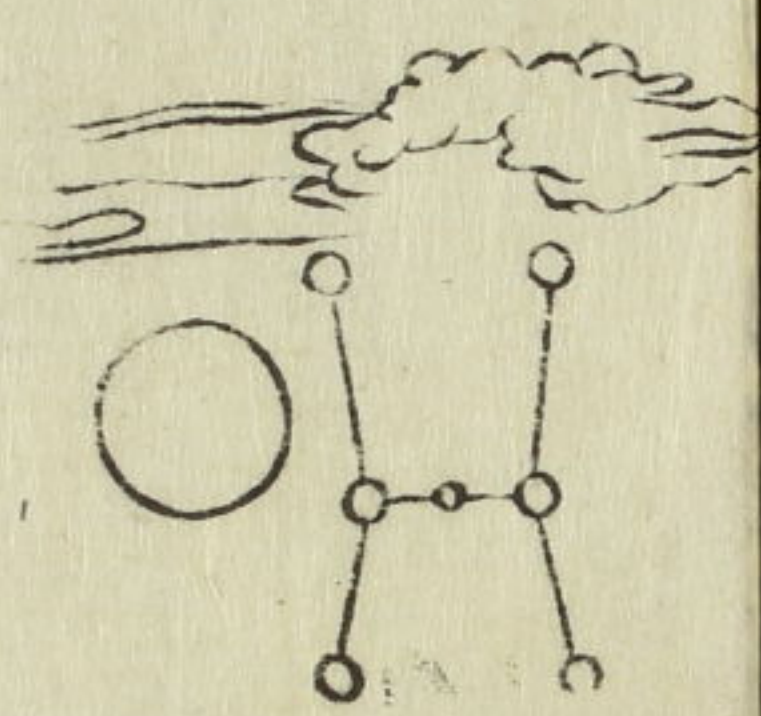
よるへつる長外詩経の月
畢にさゆふ風ぬらう
とらうたげも此星月
近と大風ふぬのうー
あぐー

月宿軒星



此軒星も二十八宿の月
此星にかふふも大風
にちるなり

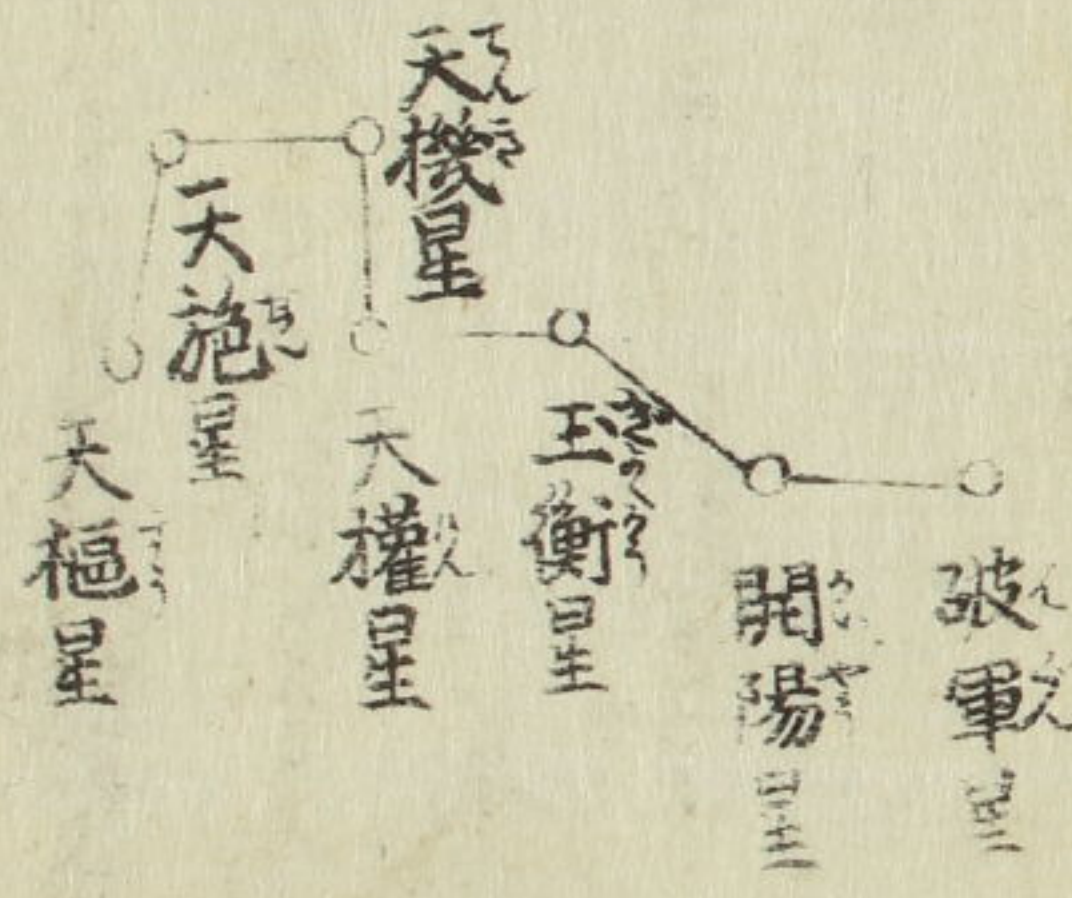
月宿軒星



此星も二十八宿の月
此星にかふふも大風
はるく永雨ふなり

小斗星にて照る考なり
此斗星も破軍星

北斗星名



二曜天と云ふこと此北斗
星の事と云ふものなり
わやわやうざぼく成ん
て知り能ハキ此星ハ
時文のよきも今に命
運のよきといふ中位を
まゝ元辰経は孔子曰
北斗第一陽明星第
二名陰精星第三真入
星第四名玄冥星第五
名丹元星第六名北極星
第七名天關星乃至主人
本命決定吉凶無とあれ
たれば星の命をたぬ
まゝと此星の標を揺る
のちやあつたり

北斗星ハ七曜ノ一也。勾乳
 と魁^{くゐ}といふ後ハ並^{なら}びの字^じと拘^く
 との字^じを^くに^さひて^くと^く
 うとくして^く北^くの^く星^{じやう}と^く
 み^くに^くハ^く風^{ふう}と^くなる^く

一七 星一面より雲を去るに可なり
て先づ久ざれ、三日も海を
あかりあつて

一七曜の内二曜を以て掩おほふ風多ありと

一斗斗星のふりまゝに

あまの月風ぬきこけり
ほろあまの秋の風

又あまの月風のきき
三五のあまの月風

とえりあまの月風のき
あまの月風

一方一又あまの月風の
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

白き月風とあまの月風の
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あまの月風のきき
あまの月風

あべ

○いづへのくちかへ

一、之のり候へ時三月の
敷と申渡され六月此時
わく年未申酉とて此迄と
去て正月ありけ之布衣の方紙
先向を多此紙より而也

○日暈ひよう考かう

一日方射暈は紅なる其日
 紅なる風色なる暈は色
 赤といひてりすは赤二色は
 大風向きの西風なりき大風
 吹く

○月量考

二月暈くも必す多すん者へん東ひがし至いたに
向むかハ風かぜの西にし又また向むかハ風かぜぬ
少すこ又また向むかハ風かぜの早はや三月
暈くも多おほく者へん大風たいふう起おこス
九日月くわにげつの暈くも必すさうふみすて
暈くも中なかつ多おほく晴はるけのめくもさすます
ぬのり暈くも必すなふきす二ふたと
とそきの六風ろくふうの者へん暈くも必す
ぬきぐとそきのすん時とき二日月ふたにげつの
暈くも重おもく多おほく府ふハ風かぜぬ
是こゝより遠とほく

○夏の日みそ米乃
わいのと米と

一夏の日みそ月初日より
四日までの日は米を米
の價さす

一八月七日八日の日は米
ハ價平なり

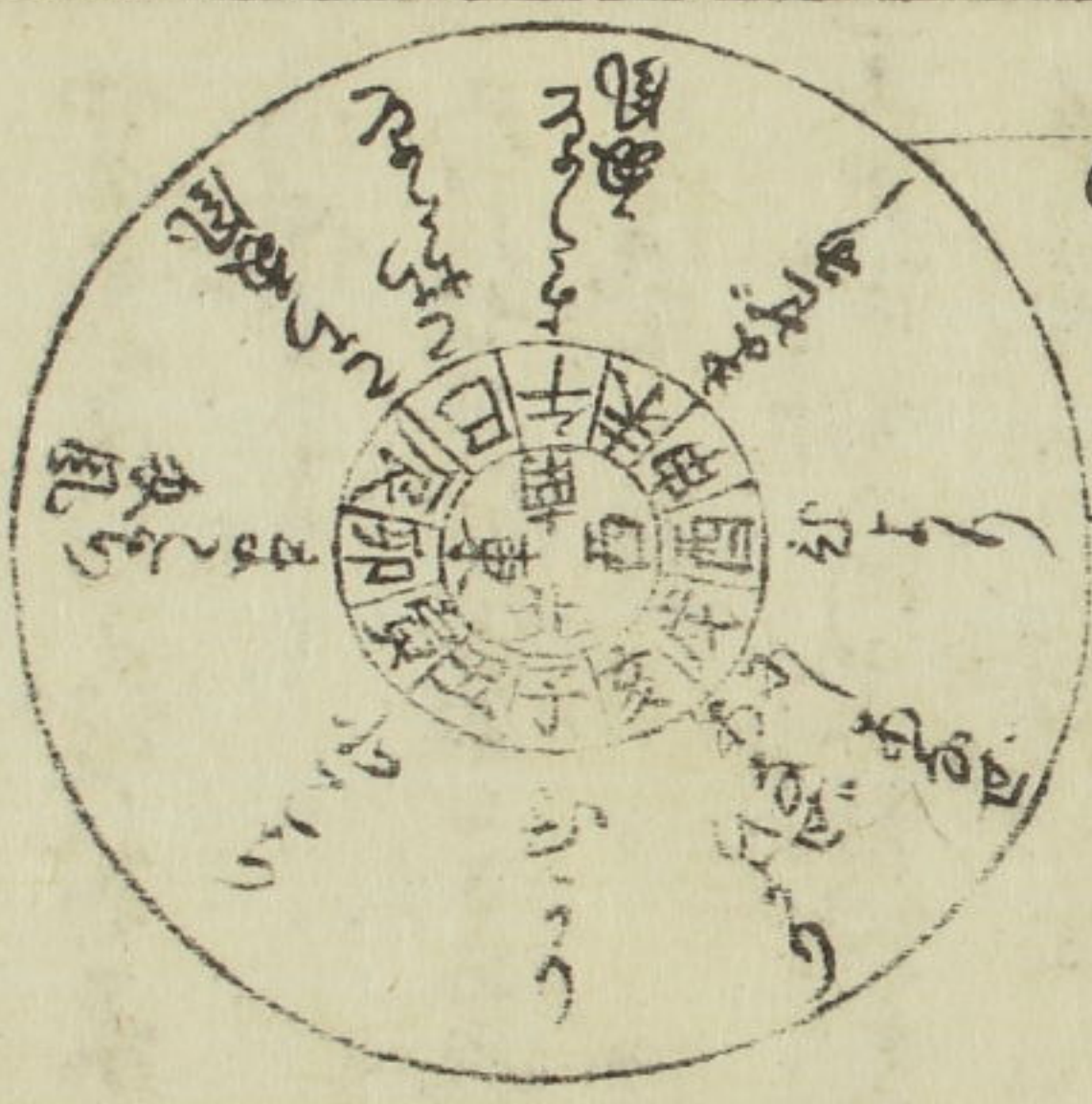
一八月中旬の日は米が
年をいって價をさし
但し土日より昨日より

一八月下旬の日は米が
年より米の價を
大なる一但し昨日より
昨日よりさす

○四季の日考

一徳を教ふ事考へておぼ
ふはことなるなり
家々使用にその

十三日と
南より
のより



八月の日考

一八月の日より米の
卦より

三陽一風生ば十長日天を晴め

うしてやまをくたれた時こそ年

をけりて秋穀大に収る

星を天をけひびりて出まを

春分の日より東方を震れ卦

こそ成るるまじき長日東を

まをまのまへ又穀大に成る

若くまをけりて入る晴の

かる時を穀大の成る

一五をありより東方を震れ卦

あつとほるまじき長日南方に

あつとほるまじき長日南方に

万物成るる若く晴のかる時

は長年ひでり多し

一五をありより南方を震れ卦

あつとほるまじき長日南方に

あつとほるまじき長日南方に

五穀成るるまじき長日南方に

明朗より時をまへるまじき

立秋の日より西方を坤の卦

あつとほるまじき長日西方に

白をなれこれ時に入る穀大なる

まをなれこれ時に入る穀大なる

一秋をけりより西方を震れ卦

あつとほるまじき長日西方に

ねるふ時ハ又穀大に成る

あつとほるまじき長日西方に

か

一五を以てより西水方乾の卦

亦成汗多氣長日久氣

時をりてまゝに

年々さくさくとしつゝ来

年とし々々わろ里いんと天てんなし此年このとし

カ

冬の日向に方坎の卦

おもひはくさるる長日ぞいて

西郷隆盛の来米大に據

西の方をめぐりて西をたれぬふの

○年中考

一ま西より吹風ハ西より吹風

ハナミツヒヤクノナリ

西の風ハ日紅とほろろ

己巳

[illegible]

あふり又ふりて

卷之三

已決心多乞

大朝臣大にありてあるまじき

大分

文とる

家内
三ツ
も
大
も

あつと

出で入るを以て

卷之二十一

大坂御参り

ふも入梅と去用六海はぐ
きりるみもあがりのん

竈に煙りやううてやん
くろくきるるあはは
はあろぐーさぐあらの
ぼりてさうらぎほりハ
天をくろー

たしれさぬぐの事あはも
こそ紙裏しき要れふと
あつたさりのなり

○雷の候

一雷はまふら天の怒れ
又云天の鞭なりとあは
陽は光せまりて雷とわる

りの之はれけるあつたり
て陽のうらにけふも陽を
ひあつてあつたはあは
あつてあつたはあつた
あつたあつたあつた八月にハ
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

○初夏の候

一子の方 夏年あつた
一西家の方 夏年あつた
一卯の方 夏年あつた
一辰の方 夏年あつた
一午の方 夏年あつた
一未申の方 夏年あつた

戌亥の方 八穀中穀五穀

又法

子の日ハ 年大に年大

丑の日ハ 牛馬に害

寅の日ハ 米穀中

巳の日ハ 虫をばみ殺す

未の日ハ 穢れあふ

申の日ハ 草木のりき

酉の日ハ 人あはれふ

戌の日ハ あり多田に換は

亥の日ハ 大あり

伴太の内印より年の

日ハうろたふ

○ 地蔵の法

凡そ月朔の日は又月大

交りてうろたふふふふ

るに往來しておれふ

りの日大れおれふ

其日或その日大にふ

風あわたりるをふ

けふふふふふ

○ 地蔵の法

地蔵の日は又月中に伏す

家の陽気なるに伏す

あるに陽気なるに伏す

月の出んとして出る

地外の陰気なるに伏す

入事あるに伏す

たりひはさるるゆへに
 とるまじの地動ははるの
 かりきるるをさるるを
 やじまをさるるのゆへ
 返るるをさるるのゆへ
 暖るるをさるるのゆへ
 ありて

○地蔵の丘

正月 二日 三日 四日
 五日 六日 七日 八日
 九日 十日 十一日 十二日
 十三日 十四日 十五日 十六日
 十七日 十八日 十九日 二十日
 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日
 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日
 二十九日 三十日

休日

正月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

初日 十五日 十六日 廿二日
 初午
 廿八日 二十九日 三十日
 二日 三日 四日
 五日 六日 七日 八日
 九日 十日 十一日 十二日
 十三日 十四日 十五日 十六日
 十七日 十八日 十九日 二十日
 二十一日 二十二日 二十三日 二十四日
 二十五日 二十六日 二十七日 二十八日
 二十九日 三十日

九月

三日より九月十三日
九月十日十三日
十六日廿五日
廿七日

十月

いひふしき
もゆのき
十月十六日十七日
十月十六日十七日
十月十六日十七日

十月

八日 十六日
廿四日 廿七日

十月

朔日 十三日
北条のき
十月十六日十七日
十月十六日十七日

十月

北条のき
十月十六日十七日
十月十六日十七日

不成乾日

正月

三日 十一日
十九日 廿七日

二月

二日 十日
八日 廿六日

三月

朔日 九日
廿七日 廿五日

四月

四日 十二日
廿日 廿八日

五月

五日 十三日
廿一日 廿九日

六月

六日 十四日
廿二日 三十日

○錢相場割

八匁入上時 銀百十六匁九匁

八匁六ト 百十八匁六匁

八匁七ト 百十八匁八匁

八匁八ト 百十三匁〇八

八匁九ト 百十一匁八八

九 百十匁〇六八

九匁一ト 百〇九匁九

九匁二ト 百〇八匁三九

九匁三ト 百〇七匁二九

九匁四ト 百〇六匁一九

九匁五ト 百〇五匁八

九匁六ト 百〇四匁八

九匁七ト 百〇三匁八

九匁八ト 百〇二匁八

九匁九ト 百〇一匁八

十 百 文

十匁〇一ト 九十匁〇八

十又〇二ト	九十又〇一
十又〇三ト	九十三又二
十又〇四ト	九十二又三
十又〇五ト	九十一又四
十又〇六ト	九十又〇五
十又〇七ト	八十九又七
十又〇八ト	八十八又九
十又〇九ト	八十八又一
十又一ト	八十七又三
十又二ト	八十六又五
十又三ト	八十五又七
十又四ト	八十四又九
十又五ト	八十三又一
十又六ト	八十二又三
十又七ト	八十二又五
十又八ト	八十一又七
十又九ト	八十又〇七
十又十ト	八十又〇一

十又十ト 八十又〇一

潮 大塩

初六分 暮九分

二日

初六分 暮九分

三日

初六分 暮九分

四日

初六分 暮九分

五日

初六分 暮九分

六日

初六分 暮九分

七日

初六分 暮九分

八日

初六分 暮九分

増補永

八日	廿九分	初六分
廿日	初九分	晚六分
廿一日	初九分	初五分
廿二日	初九分	晚六分
廿三日	初八分	初八分
廿四日	初八分	晚八分
廿五日	初八分	初八分
廿六日	初八分	晚八分
廿七日	初七分	初四分
廿八日	初七分	晚四分
廿九日	初七分	初四分
三十日	初六分	初九分
晦日	初六分	初九分

大坂の漢上より月廿八日
 丹波の人の生死を記す

その日にて四つて辰とす

○商事に吉日

きのとつちのく
 ひのえ
 うのえ
 うのえ

○一粒万倍日

正月	二月
二月	三月
三月	四月
四月	五月
五月	六月
六月	七月
七月	八月
八月	九月
九月	十月

増補

四七

十月

十一月

○仏神立

春

夏

秋

冬

易術貨殖傳

小本 壹冊

此書ハ米穀賣買の秘傳ハ
日時の運氣より小易の
起て迄くふじむを付して
解く安く実米家の必用随
と賞一巻むべき出たる

米穀内實鑑

大紙 一枚摺

此出ハ清和屋浦より米穀
係数賣買同出の目限
おとろくくろく

寛延元辰年稿成

明和五子年初刻

寛政六甲寅年再刻

天保十一年丑年三刻

嘉永六癸丑年改正

江戸 須永屋書

京都 山城屋書

尾張 永永屋書

敦賀屋書

大坂 敦賀屋書

書林 増補

書林 増補

